

# 火山・富士山研究

つやひろみち  
津屋弘達

1902-1988



一色村随原(現在の本巢市随原)の出身。大正 12 年(1923)、東京帝国大学理学部地質学科に入学しますが、同年に起きた関東大震災は、地震学研究的道にすすむことを決意する出来事となりました。

東京帝国大学地震研究所に入り、「伊豆半島および富士火山帯の地質および岩石に関する研究」により、理学博士の学位を得ます。この研究により富士火山が古御岳・古富士・新富士火山の複合体であることを明らかにしました。東京大学教授も務め、地震関連の委員、評議員を歴任しました。「富士山は私の生涯の恋人」と言っており、ハンマー片手に富士山に通いつめました。